

15 / 機械たちの午後

PAT.

脚本: 櫻井圭記・神山健治 絵コンテ: 布施木一喜 演出: 竹下健一 作画監督: 中村悟



OA.15 STORY

「個別の11人」のデータ分析や自分たちの存在について議論に夢中のタチコマたち。そんな中、パターがタチコマ1機を連れて少佐の待つスプリング8へ向かうと近くの研究所で爆発が起こる。しかし爆破事件は有須田博士が亡命のために企てたと察した草薙は、新浜空港で博士を確保。有須田はタチコマのAI開発者、いわばタチコマの父であった。草薙は博士にタチコマのメモリの1部に書き込んだ有須田の記憶を消すように促すのだった。

POINTS of STORY

タチコマ同士による、テンポのよい会話劇に注目
衛星にAIを置くタチコマ、改造されたタチコマの秘密が明かされる
タチコマの産みの親、有須田博士。彼の起こした行動と9課の対応に注目

ときにはにぎやか、ときには叙情的 個性派なタチコマの魅力にさらに迫る

見れば見るほど、聞けば聞くほど愛着がわくタチコマの挙動 2nd GIGのストーリー展開は全般的に1stと似た構成をとっている。そういう狙いもあり、本話は1stのO.A.15「機械たちの時間」に位置する話となっている。前半部は、機関銃のように台詞が飛び交うタチコマたちの会話が見どころだ。「タチコマはかなり頭の回転が早いという想定で、巻き読み、巻き読みですね。特にタチコマとタチコマがしゃべり終わり、別のタチコマがしゃべり始める、その重なるような末期部分には気を使いました。ちょっと短めにし、そこでテンポを詰めるといった感じで。ただし、聞かせなければならぬところはありますし、感覚的に耳に残る部分もありますし、その見極めが大切でした(竹下氏)。会話のテンポは、小刻みに揺れるボディとうまくマッチしており、聞いていて非常に心地いい。

人材の亡命 = 兵器の輸出 『攻殻』の時代では、優秀な人間の頭脳がもはや兵器。優秀な人材が海外に出ることは、強大な兵器の輸出を意味する行為だ。公安9課の立場からすれば、亡命を防げないぐらいなら殺すのもやむを得ないほどである。このテーマは最終話への伏線にもなっているので、本話のいきさつを記憶にとどめておいてほしい。



おとなしくメンテナンスを受けず、気ままに行動するピュアなタチコマ。



「地球生命圏」などといった、高尚な書物をも次々に読破していた。

CHARACTER FILE

有須田博士

大型実験施設スプリング8の近くにある研究所に、主任研究員として務めていたタチコマの父親ともいえる存在。研究所で爆発事件を起こし亡命を企てる。タチコマのAIに使用されているニューロチップの試作モデルをひとりで開発するという功績があり、そのほか、タチコマのエージェント機能の追加や記憶に二重構造を持たせ、経験値を失う危険を取り除く方法を考案するなどの多くの実績もあったが、固定研究員という立場から、優れた開発者しても個人のペテントは認められず、彼自身には何の利益にもならなかったため、亡命を望むも9課の活躍で防がれてしまう

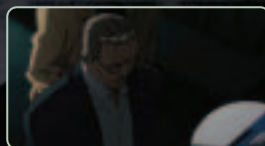


Staff's Comment

タチコマたちがなんでパターにだけなつくのかというと、作ってもらった有須田博士に何となくパターが似ているからということを神山監督から聞いて、「そうか、じゃあパターに似てるんだったら、イノセンスのパターにしておくか」みたいな感じで(笑)描きました。作中で有須田博士とパターのツーショットが結構あったんですが、実にいい感じでしたね(笑)。(西尾)

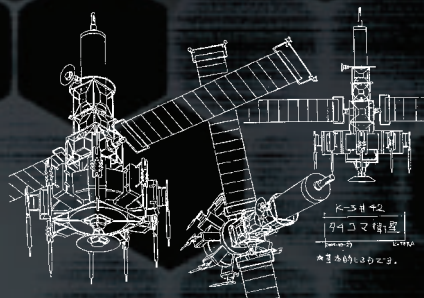


飛行機で亡命しようとする有須田だが、彼の望みは水際で絶たれてしまう

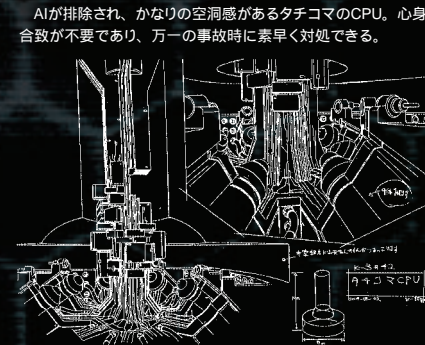


モジモジとするタチコマに、博士は実の息子を眺める気持ちだっただろう。

タチコマと有須田博士の対峙 前半部のにぎやかな場面とは一転して、有須田博士登場時は非常に叙情的となった。タチコマの台詞は微妙なものを含み、おずおずと尋ねる愛らしい姿が、これまでにない魅力的に映るはずだ。さらには、やり切れないといった博士の心情もよく伝わってくる。このメリハリがより感動を誘ってくれるが、演出家の竹下氏いわく、たっぷりめの「間」がキーだったとか。「非常に難しい話ではあるんですよ。突飛過ぎるな展開、構成ですが、何とかしんみりした雰囲気や僕のできる範囲で出せたらいいなと。優しい感じの芝居付けを行い、間をたっぷりめに取りました。タチコマが「あなたは僕のお父さんですか?」「ふっ……お父さんか」のくだりなどは、特に意識してあります(竹下氏)。



タチコマのAIは宇宙衛星の中に組み込まれ、ハブ電腦を介して並列化。パターやトグサさえも知らなかった事実だ。



AIが排除され、かなりの空洞感があるタチコマのCPU。心身合致が不要であり、万一の事故時に素早く対処できる。

竹下健一

大きさの対比 とにかく3Dスタッフの方にお疲れ様でした。今まではタチコマだけのシーンが多かったのですが、今回はタチコマとその整備機材や多くのキャラクターも出てきて、画面上での大きさの調整がすごく大変でした(笑)。タ

Director's Comment

タチコマの台詞 タチコマは頭の回転が速いという想定をして、台詞は決められた尺の中でたくさん喋らせるようにしています。でも聞かせなければいけないものもあるので、そのタイミングや聞きたい部分には気を使っています。